

特集

# インターネット と 自動車

*Internet  
and  
Vehicles*





# 編集にあたって

植原 啓介 kei@wide.ad.jp / 慶應義塾大学 政策・メディア研究科

寺岡 文男 tera@tera.ics.keio.ac.jp / 慶應義塾大学 理工学部

今年第二世代のテレマティクス競争が始まる年になりそうだ。テレマティクスとは「テレコミュニケーション（通信技術）」と「インフォマティクス（情報科学）」を合わせた造語である。自動車業界でよく使われる言葉であり、AVM (Automatic Vehicle Monitor: 動態監視) やネットワークカーナビ、HELPシステム等がこの分野の代表的なアプリケーションである。これらのシステムは自動車に付加的な価値をもたせ、安全確保・環境保全・快適走行に役立つとされている。

このような中で、日本ではインターネット色を強くアピールしたシステムが多いという特徴がある。インターネットが急速に成長しているとともに携帯電話業界の新技術導入が他国に比べて早く、ワイヤレスを含むモバイルインターネット技術が利用しやすい環境にあるためであろう。そのような背景を受けてか、近年、トヨタのG-BOOK、日産のCAR WINGSなど、大手自動車メーカーが競って新たなテレマティクス技術の導入を発表している。ネットワークを活用した自動車産業の活性化がいっしょに進みそうな状況である。

しかし、その内容を見てみると、まだ、十分にネットワークを活用したアプリケーションが導入されているとはいえない。現在提供されている多くのアプリケーションは情報享受型のアプリケーションであり、車内の人間への情報提供にとどまっている。本来の意味でのネットワークアプリケーションとは情報を流通させることによって、ドライバやパッセンジャなど車内に居る人はもちろん、自動車に乗っていない人にとっても有用なものではないだろうか。

現在、第二世代のテレマティクス競争が始まったばかりであるが、第三世代のテレマティクスは、本来の意味での人間の生活を支えるものになると考えられる。そこで、今回の特集では、インターネットを利

用した自動車情報化の流れに着目した。この分野は自動車情報化の流れの先に位置付けられると同時に、インターネットの将来をも占うことのできる分野である。あるいは、身の回りの情報化は自動車から始まるのではないかと思わせられるような動きもある。今回この特集を組んだ背景には、そのような新たな情報化社会の流れが始まる一端を自動車が担っていると考えたからである。

第1編は自動車をインターネットに接続し、自動車に情報を与えたり自動車から情報を収集する際の要求事項や技術的課題についてまとめている。ここであげられた要求事項のうち、第2編は自動車の地理的な位置情報をプライバシーを守りつつインターネットで管理するための技術を取り上げ、地理位置情報システムについて解説している。また、自動車をインターネットに接続した際のアプリケーションとしては自動車への情報提供を思い浮かべるが、第3編は多数の自動車が発信する情報を蓄積、加工するシステムであるプローブ情報システムについて解説している。一方、高度交通システム (ITS) の分野では種々のシステムが研究・開発され、自動料金収受システム (ETC) のように実運用に入ったものもある。しかしシステムによって独自の通信方式を採用するなど、相互運用性の問題点が指摘されている。インターネットITSは種々のITSサービスの通信基盤としてインターネットを利用することを目指している。第4編ではインターネットITSの概要を述べ、第5編では1,600台以上の自動車を利用して名古屋で行う実証実験について解説している。最後に第6編で自動車の情報化に関する国際動向や標準化動向について述べ、本特集のまとめとする。

(平成14年3月11日)